

古文書解読入門講座が開催されました！

古文書が読めればいいなと思ったことはありませんか？

2015.11.9 (レポーター 長谷川 紫)

◆古文書を読みたいと思った人は
案外多いかも?!◆

6月から10月まで第2・第4土曜日に開催されている「古文書解読入門講座」が今年も6月13日土曜日から広島県立文書館で開催されました。毎年人気の講座で今年も10代(高校生)から80代の方まで60名あまり(やや男性の方が多め)と、ほぼ満席でスタート！古文書の解読に興味津々の皆さんが講師の話に耳を傾けていました。今回は私も古文書解読入門講座を実際に受講して、そこで感じたこと、具体的な内容を紹介したいと思います。

◆まずは武家諸法度から◆

江戸時代武家の守るべき義務を定めた「武家諸法度」。ここでは寛永7年(1630年)のものを解読していきました。400年くらい前の人の字が読めるのかなと思いつつ始めます。読めそうな漢字を読んでみたり、配られたくずし字の「かな」とにらめっこしながら少しずつ進めます。くずし字解読辞典を購入したら似た文字を探していきました。結構時間のかかる予習となりました。次の講座で解説を聞き、資料をもらいます。皆さん真剣に聞いて「あ~そうかあ」「全然ちがった~」などの声が飛び交います。

本物を見ることも

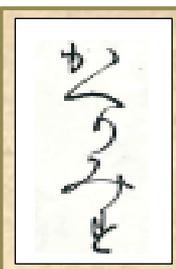


武家諸法度



これ何で読むでしょうか？

答えは：かえりみず



これなんて読めそうでしょ！

答えは：江戸城下



これはどうでしょう?! 難しいですね

答えは：あいしたがうべきこと



講座のようす

◆だんだんと・・・◆

はじめは古文書解読というより暗号解読という感じですが、予習・復習して悪戦苦闘するうちにちょっとだけ目が慣れてきたかと思う瞬間があったり、辞書で探した文字があったりすると「あった!!」とうれしくなってきます。もちろんいくら探しても分からない文字もいっぱい。それでも講師の丁寧な説明で、なんだか少し解読らしくなってきたかかという気に・・・。

テキストは他にも文書館所蔵の文書で、藩のこと、お祭りのこと、商家のこと、工事のこと、幕末のことなど盛りだくさん。江戸時代から明治の初めの広島がいきいきとよみがえります。知っている町名を見つけると、更に身近に感じられ広島県立文書館ならではの難しくも(?!)楽しい講座となっています。

◆おまけ◆



テキストにもあった東照宮の「通り御祭礼」にも参加しました。200年ぶりに復活したお祭りで気分は江戸時代！

◆他にも◆

文書館の紹介と書庫の見学がありました。文書館には普段自由にご利用いただける閲覧室や展示室の他に大量の行政文書や古文書の書庫などがあります。文書の多さや文書の整理・保存の困難さを少しだけ覗いていただけたと思います。

最後の日には修了証書をいただきました

いかがでしたか? 「古文書解読入門講座」。ほんの少し紹介させていただきました。興味のある方は来年の古文書入門講座の受講を検討されてみてはいかがでしょうか。また広島県立文書館の展示室では行政文書や古文書などに関する展示を行っています。テーマはホームページでも確認できますのでぜひ覗いてみて下さい。

今回の受講生の皆様お疲れ様でした。今後も古文書の解読、「続入門講座」へのチャレンジなど挑戦していきたいですね。私も今後、くずし字に出会うことがあった時には講座で学習したことを思い出したいなと思います(さっそく美術館の浮世絵の横の文字をじっくり見つめて・・・)。誰でも一歩踏み出せば、日頃と違った世界を覗くことができると思った講座でした。皆様も次の機会にぜひどうぞ!!